



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/07/15

あっさり黙示録 #65

千年王国の統治者たち

黙示録 20 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は久々にあっさり黙示録の第 65 回目、パチパチパチ！ということで、黙示録は今まで重い内容・暗い内容が多かったのですが、今日は素晴らしい内容なんですね。それは千年王国についての情報です。

7 年間の艱難時代がありますね。それが終わると千年王国が始まりますが、千年王国と言うくらいなので王がいるんです。そして、王の側近たち・統治機構があって、その下に国土と国民がいます。これがメシア的王国。千年間続くので千年王国と言うんですね。

今日は、キリストの側近として千年王国を統治する 3 種類の人々をお話します。千年王国は旧約聖書に詳しく書いてあります。しかし、旧約聖書の中には触れられていなかった情報が、今日の黙示録の中に出て来るんです。いったいこの千年王国、キリストと共に統治するって、どんな人たちなんでしょう。

- 1) 艱難時代の前に携挙された教会に所属するクリスチャンたち。
- 2) 艱難時代の中で殉教した人たち。
- 3) 黙示録には出て来ないけど、旧約聖書の情報によると、千年王国の前に復活する旧約時代の人たち。

〈千年王国を統治する第 1 のグループ〉

黙示録 20 章

4a-b また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。

座はさばきの座です。千年王国の間、この国を統治する座、それらの上に座っている者たちがいた。彼らにはさばきを行う権威が与えられた。これが教会／艱難時代の前に携挙された人たち／携挙と共に復活の体を持っている人たち。彼らが千年王国の時代、キリストと共に統治します。

なぜそう言えるのか。ここ以外に、聖書で 2 つの箇所が裏付けをしてるんですね。

第一コリント 6 章

2 聖徒たちが世界をさばくようになることを、あなたがたは知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるのに、あなたがたには、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。

これは、パウロがコリントという地域教会に書いた手紙の一文です。

聖徒たちは、コリントのクリスチャンを含むすべてのクリスチャンたちのことです。世界をさばくようになる。今は治めてません。やがて治めるようになる世界。まだ来てないけど、やがてやって来る世界をここで指しているんですね。それが千年王国です。

クリスチャンはやがて世界をさばくようになる。「なのに、あなたがたは今、クリスチャン同士であだこうだ、意見の違いがどうだこうだと、すぐに争うのはどうということなんですか」と戒めているんですね。

これが、“千年王国では、教会に所属したクリスチャンたちがやがて統治する”という根拠の1つです。

もう1つは**黙示録 3章**。これは**ラオディキア**の教会に言われたのですが、同時に、すべてのクリスチャンたちにも当てはまる言葉です。

21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

わたしとともにわたしの座に着かせる。千年王国でキリストの座は王座です。この王と共に統治するために、座に着かせてもらう人たち。それはラオディキアのクリスチャン限定ではありません。

というのは、**22 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。**聖霊はこのみことばを、諸教会／すべての教会・地域集会に対して語っていると言っているんですね。これが1番目のグループです。

〈千年王国を統治する第2のグループ〉

黙示録 20章

4c-e また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。

彼らは殉教者たちです。千年王国に入る前の艱難時代、おびただしい人たちが殉教します。彼らは地上で悲惨な目に遭うんですが、千年王国で慰めを受けるんですね。ところで、この殉教者は2つのグループに分けて説明されています。

① イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々

これは艱難時代前半に殉教した人々。艱難時代前半に、本物のクリスチャンを殉教に追い込むのは反キリストではないんですね。携挙されずに残った、偽の教会を中心とする世界統一宗教、これが本物の信仰者を迫害するのです。

② 獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった人々
艱難時代後半、反キリストを礼拝しなかったことで殉教した人たちです。

彼らは手にも額にも 666 の刻印を受けていなかったんですね。
そのために大変な迫害と殉教の目に遭うのですが、彼らも生き返って、王として千年王国で統治すると書いてあるんですね。これは大きな慰めです

〈千年王国を統治する第 3 のグループ〉

これは黙示録には登場せず、旧約聖書に出て来ます。
千年王国についての情報で、黙示録の中に新たに提供されているものは極々わずかです。なぜだと思いませんか。千年王国については、旧約聖書の中でたつぷりと情報提供を終えているからです。

その情報提供を旧約聖書の中から 1 箇所見てみましょう。

イザヤ書 26 章

17 子を産む時が近づいた妊婦が産みの苦しみで、もだえ叫ぶように、主よ、私たちは御前でそのようでした。

産みの苦しみは妊婦さんの陣痛のことで、艱難時代を意味しています。
艱難時代はすべての民族が苦しみますが、特に狙い撃ちにされるのがユダヤ人です。
なのでキリストは、艱難時代のことを産みの苦しみと言いましたが、当然この個所を念頭に置いていたんですね。

18 私たちは身ごもり、産みの苦しみをしました（陣痛が私たちの身に襲い掛かりました）。それはあたかも、風を産むようなものでした。私たちは救いを地にもたらさず、世界の住民はもう生まれてきません。

普通は産みの苦しみの結果、赤ちゃんを産みますね。命あるものを産み出すことができる。ところが艱難時代は、苦しみを受けたからといって、ユダヤ人から良いものは何も出てこない。ユダヤ人が産み出したものは風だった。

風は、旧約時代の表現では虚しいものの代表なんです。
「私たちは虚しいものしか出すことができませんでした。もし実りがあったとするなら、それは神の恵みであって、私たち自身からは何も良いものは出てませんでした」という悔い改めの祈りの言葉なんですね。
この悔い改めの後、キリストが地上再臨なさるのです。

19 あなたの死人は生き返り、私の屍は、よみがえります。

艱難時代の最後／最終日にキリストが地上再臨します。
この再臨のキリストの力によって、千年王国の前に旧約の聖徒たちがよみがえる。
イザヤ書は旧約時代の聖書で、その時代の聖徒たちとは、例えばアブラハム・イサク・ヤコブ・モーセ・ダビデ・エリヤ…そういう人たちです。
彼らは携拳のタイミングでよみがえるのではなく、千年王国の前によみがえる。
そのことを、この聖書の個所で知ることができるんですね。

19 覚めよ、喜び歌え。土のちりの中にとどまる者よ。まことに、あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。

土のちりの中にとどまる者よ。これは埋葬された死人のことです。しかし、まことに、あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。露が地面に降りて水分が補給されると、種がそこにあつたら芽吹きますよね。それと同じように、キリストが降りて来られることによって、旧約時代の聖徒たちも皆生き返ります。復活します。そして、千年王国で統治者に加えられるんですね。それは際めて素晴らしい希望です。

黙示録 20 章

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対して、第二の死は何の力も持っていない。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに千年の間、王として治める。

将来に良いことが待っている人って、ワクワクしながら生きるんじゃないですか。この地上の良いこと、楽しみにしていることを実際に経験すると、「それほどでもなかったな。待ってる期間の方が楽しみだったな」ということがありますよね。私も修学旅行の前日、めちゃめちゃ楽しみだったけど、行ってみたら大したことなかったなって、そんなことがありますよ。

だけど、神様が準備するものって、そんな中途半端なものではないんです。神様が素晴らしいものを準備して待っていてくださる。その時までワクワクしながら、胸を張って、まっすぐ前を見て歩もうではありませんか。その励ましのメッセージが**黙示録**なんです。

もう一点、気になる節があつたので見ておきましょう。

5 残りの死者は、千年が終わるまでは生き返らなかつた。これが第一の復活である。

旧約時代の聖徒たちと艱難時代の殉教者たちは復活します。残りの死者とはそれ以外の人たち。すなわち、キリストを拒んで反キリストに従い、そして、創造主から離れたままの人たちすべて。彼らの行き先はそうではないことを示唆しているのです。これについては、次回詳しく見て行きます。

黙示録は終末論の全体を明らかにしてくれる、非常に貴重な情報源なんですね。これからも一緒に見ていけたら幸いです。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017